



2024年9月期 第1四半期

# 決算説明資料

株式会社 EduLab

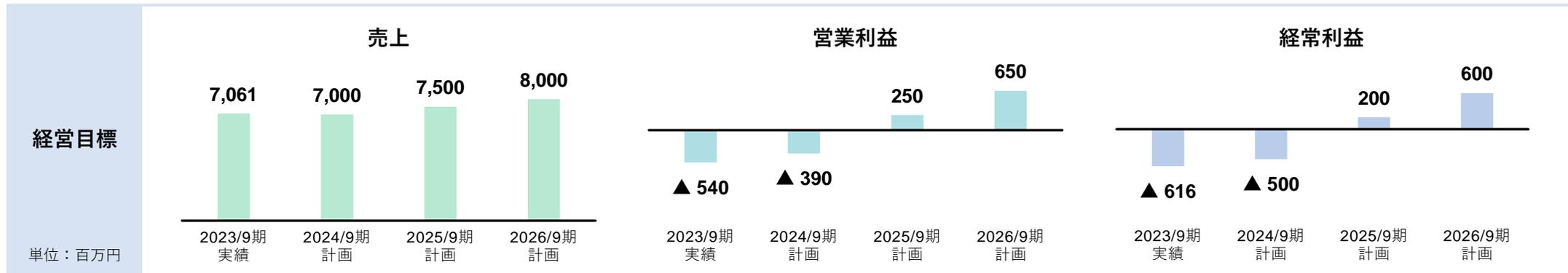
東証グロース市場 証券コード：4427

2024年2月13日

当社は、2024年9月期～2026年9月期の3カ年を対象にした**中期経営計画**を、2023年12月に公表いたしました。

**1：事業構造改革、2：コスト構造改革、3：組織体制・企業風土改革**の**3つの改革**に取り組み、**2025年9月期に、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の黒字化**を目指します。

## 2025/9期 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益の黒字化を目指す



**全社戦略** **3つの改革【事業構造改革、コスト構造改革、組織体制・企業風土改革】の断行**

事業別戦略	テスト等 ライセンス事業	テスト運営・受託事業	テストセンター事業	AI事業
	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ クロスセルによる自社サービスの売上拡大</li> <li>✓ 対応端末の拡張、UI/UXの改善等 プロダクト/サービス品質向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ AI技術を活用した業務効率化</li> <li>✓ 企画/コンサルティング案件への拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ キャパシティおよび対応CBTの拡大</li> <li>✓ 運営の体制強化および効率化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ クロスセルによる文字認識、自動採点・添削サービスの売上拡大</li> <li>✓ 測定技術と組み合わせた独自AIサービスの展開</li> </ul>

次ページ以降で、2024年9月期第1四半期の業績を記載しております。



## 1. 2024年9月期1Q決算概況

- 売上高 1,398百万円（前年同期比 21.5%減）
- EBITDA △161百万円（前年同期は△109百万円）
- 営業利益 △183百万円（前年同期は△301百万円）
- 経常利益 △305百万円（前年同期は△419百万円）
- 親会社株主に帰属する四半期純利益△328百万円  
（前年同期は△ 536百万円）
  - EPS △32.15円
- 主に2024年9月期に撤退予定の教育プラットフォーム事業における減収の影響により、売上高は前年同期比で減少したものの、テストセンター事業及びテスト運営・受託事業は堅調に推移し、通期業績予想に対して予定通りに進捗  
通期業績予想の変更なし
- 減価償却費等の売上原価の減少に加え、業務委託費や人件費の削減等により販売費及び一般管理費が減少し、営業損失、経常損失は前年同期比で縮小
- 前年同期に計上した固定資産の減損損失等の特別損失が当期は大幅に減少し、四半期純損失は縮小

## 2. 2024年9月期1Qのセグメント動向

- テスト等ライセンス事業は、CASECのライセンス収入が微増となった一方で、スピーキングライセンス収入等が減少し、売上高は前年並み（1.8%減）
- 教育プラットフォーム事業（※）は、語学ラーニングツールのライセンス契約終了に伴い減収（73.7%減）
- テストセンター事業は、テストセンター利用者数が安定して推移したことに加え、連結子会社化したサクセススペース株式会社（SS社）及び有限会社システムサポートアンドコンサルティング（SAC社）の業績が寄与し、売上高は増収（4.4%増）
- AI事業は、手書き文字認識「DEEP READ」ライセンス収入が安定して推移したものの、特定顧客向けの一部プロジェクトの終了に伴い、売上高は減収（6.7%減）
- テスト運営・受託事業は、全国学力・学習状況調査（中学校事業）を委託機関として受託したこと等により売上高は前年並み（2.3%増）

（※）2024年3月末をもって教育プラットフォーム事業は撤退予定

（※）英ナビ！に関連する一部サービスについては継続を含め検討

# 2024年9月期 第1四半期実績

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

	23年9月期1Q	24年9月期1Q	対前年同期比
売上高	1,782	1,398	△21.5%
営業利益	△301	△183	－
営業外収益	79	50	
受取利息	2	20	
受取配当金	－	27	
契約解約益	68	－	
営業外費用	198	172	
為替差損	119	114	
投資事業組合管理費	43	49	
持分法による投資損失	1	－	
経常利益	△419	△305	－
特別利益	25	－	
投資有価証券評価益	25	－	
特別損失	109	11	
減損損失	70	－	
訴訟関連損失	39	11	
四半期純利益 <sup>1</sup>	△536	△328	－

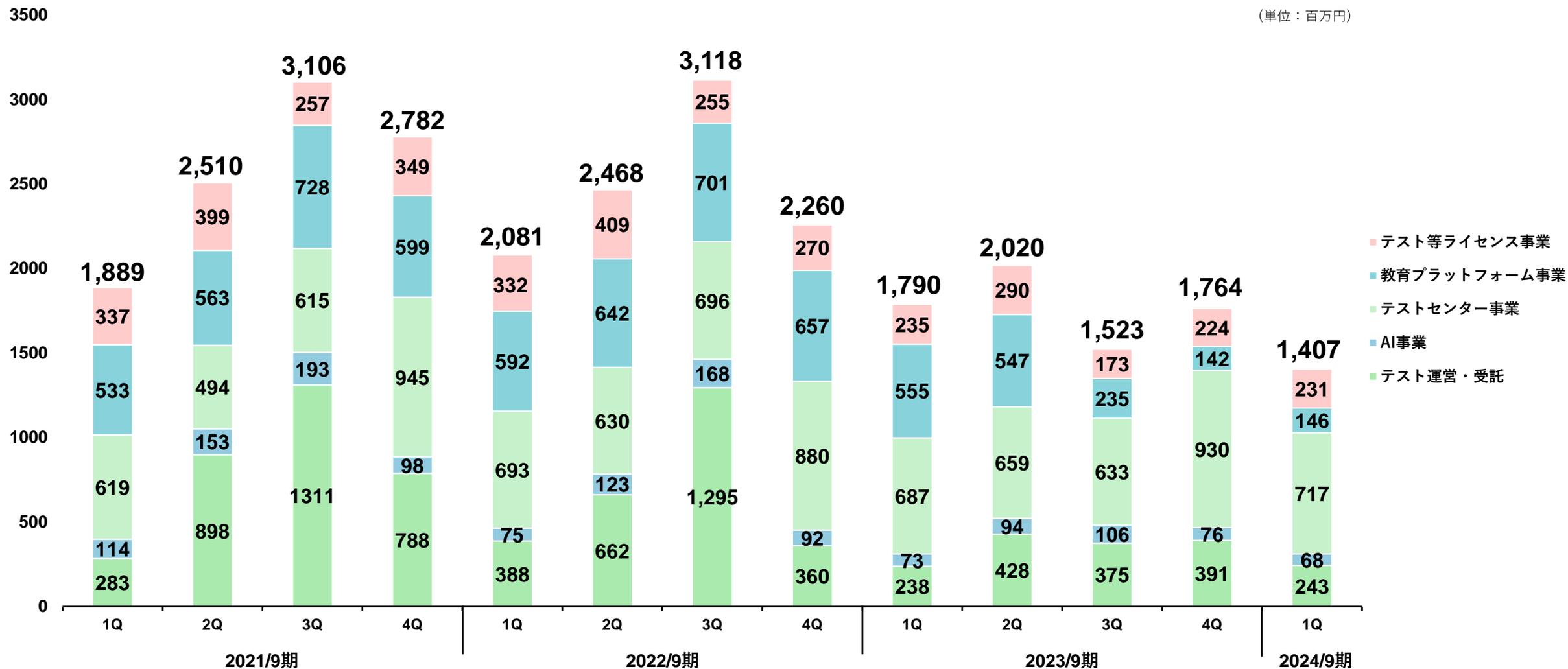
- 主に2024年9月期に撤退予定の教育プラットフォーム事業における減収の影響により、売上高は対前年同期比21.5%減の1,398百万円となりました。一方で、テストセンター事業及びテスト運営・受託事業は堅調に推移し、通期業績予想に対して予定通りに進捗しました。
- 減価償却費等の売上原価の減少に加え、業務委託費や人件費の削減等に伴う販売管理費の減少により、営業損失183百万円を計上したものの、前年同期比では約120百万円改善しました。
- 主に外国為替相場の変動に伴い、今期1Qに為替差損114百万円を営業外費用に計上したこと等により、対前年同期比で損失幅は縮小したものの、305百万円の経常損失となりました。
- 前年同期において、将来に損失を繰り延べないために計上した固定資産の減損損失70百万円を今期1Qは計上しなかったこと等から、親会社株主に帰属する四半期純損失は前年同期比で縮小し、328百万円の四半期純損失となりました。

## セグメント別の売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

事業セグメント		23年9月期 1Q	24年9月期 1Q	前年同期比
テスト等ライセンス	売上高	235	231	△ 1.8 %
	セグメント損益	△26	47	—
教育プラットフォーム	売上高	555	146	△ 73.7 %
	セグメント損益	119	△21	—
テストセンター	売上高	687	717	+ 4.4 %
	セグメント損益	29	64	+ 123.1%
AI	売上高	73	68	△ 6.7 %
	セグメント損益	1	10	+ 802.2 %
テスト運営・受託	売上高	238	243	+ 2.3 %
	セグメント損益	△48	△4	—
全社費用		△375	△280	95百万円 減少

# 連結売上高の四半期推移（2021年9月期1Q～2024年9月期1Q）



# セグメント利益の四半期推移（2021年9月期1Q～2024年9月期1Q）

(単位：百万円)

事業セグメント	2021年9月期				2022年9月期				2023年9月期				2024年 9月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
テスト等ライセンス事業	135	195	79	175	73	156	△4	43	△26	72	△14	49	47
教育プラットフォーム事業	241	222	404	246	132	203	213	181	119	107	△4	△104	△21
テストセンター事業	△187	△427	△18	136	91	△70	116	199	29	102	54	148	64
AI事業	△235	△24	41	△122	△145	25	25	17	1	58	69	△14	10
テスト運営・受託事業	△20	108	61	△133	△61	20	49	23	△48	44	△37	16	△4
全社費用	△330	△388	△298	△286	△305	△367	△378	△472	△375	△299	△264	△224	△280

(単位：百万円)

	2023年 9月末	2023年 12月末	増減額
<b>流動資産</b>	<b>5,293</b>	<b>4,261</b>	<b>△1,032</b>
現預金	3,844	2,813	△1,031
その他	1,448	1,448	△0
<b>固定資産</b>	<b>725</b>	<b>952</b>	<b>+226</b>
有形固定資産	0	145	+145
ソフトウェア仮勘定	0	64	+64
のれん	—	51	+51
投資その他の資産	725	691	△34
その他	0	2	+2
<b>繰延資産</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>+0</b>
<b>資産 合計</b>	<b>6,021</b>	<b>5,216</b>	<b>△804</b>
<b>流動負債</b>	<b>3,659</b>	<b>2,945</b>	<b>△714</b>
有利子負債	1,872	1,445	△426
契約負債	422	339	△83
その他	1,364	1,160	△204
<b>固定負債</b>	<b>476</b>	<b>654</b>	<b>+177</b>
有利子負債	411	598	+187
その他	65	55	△9
<b>負債 計</b>	<b>4,136</b>	<b>3,599</b>	<b>△537</b>
<b>純資産 計</b>	<b>1,884</b>	<b>1,617</b>	<b>△267</b>
<b>負債純資産 合計</b>	<b>6,021</b>	<b>5,216</b>	<b>△804</b>

- 流動資産は、前事業年度末より1,032百万円減少
  - 現預金が1,031百万円減少した主な要因は、有利子負債の返済によるもの
- 固定資産は、226百万円増加
  - 有形固定資産：145百万円増加
  - ソフトウェア仮勘定：64百万円増加
  - 株式取得による子会社化に伴うのれん：51百万円増加
- 流動負債は、714百万円減少
  - 短期借入金：326百万円減少
  - 1年内返済予定の長期借入金：100百万円減少
  - 契約負債：83百万円減少
  - 流動負債その他：138百万円減少
- 固定負債は、177百万円増加
  - 長期借入金：187百万円増加
- 純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等により利益剰余金が減少したことにより、267百万円減少

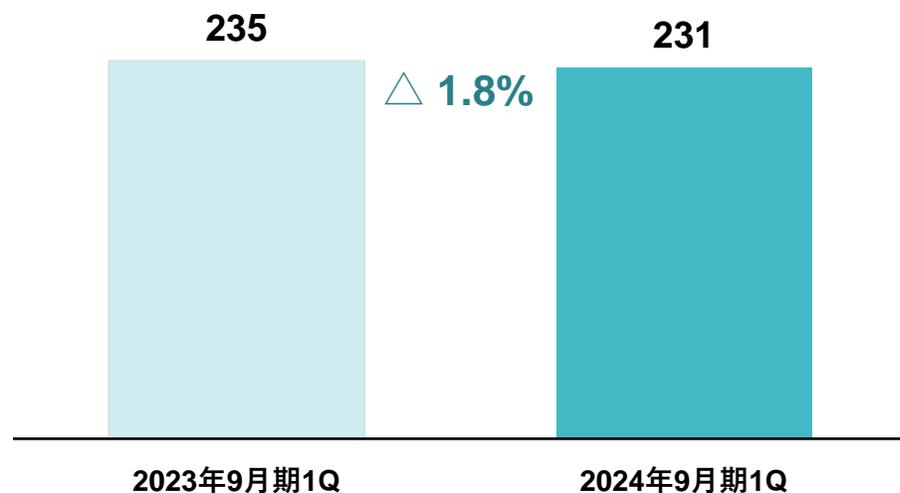
# 事業セグメント別 実績

- オンライン英語テスト「CASEC」のライセンス収入が増加した一方で、英語スピーキングテストに伴うライセンス収入は減少し、売上高は前年並みとなりました。
- 前期に計上したソフトウェアの減損損失に伴う当期における減価償却費の減少や、不採算サービスの停止等に伴う販売管理費の削減により利益率が改善しました。
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 1.8%減となる231百万円、47百万円のセグメント利益**（前年同期はセグメント損失26百万円）となりました。

## 売上高・セグメント損益

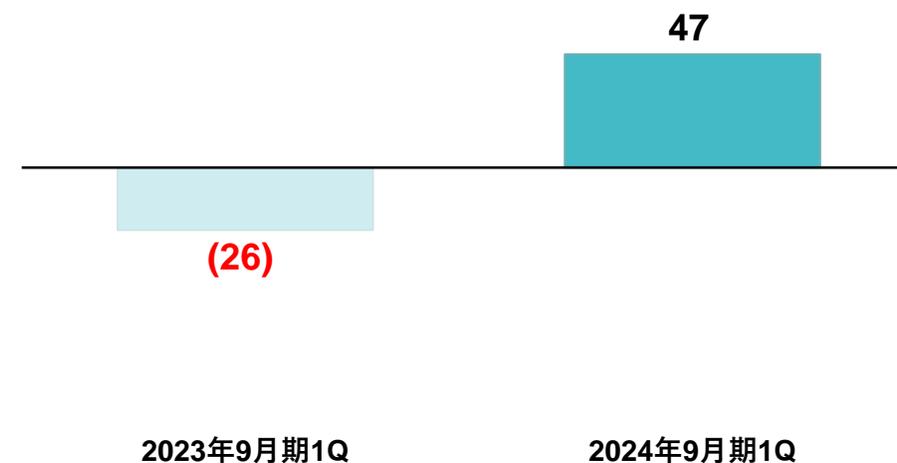
### 売上高

(単位：百万円)



### セグメント損益

(単位：百万円)

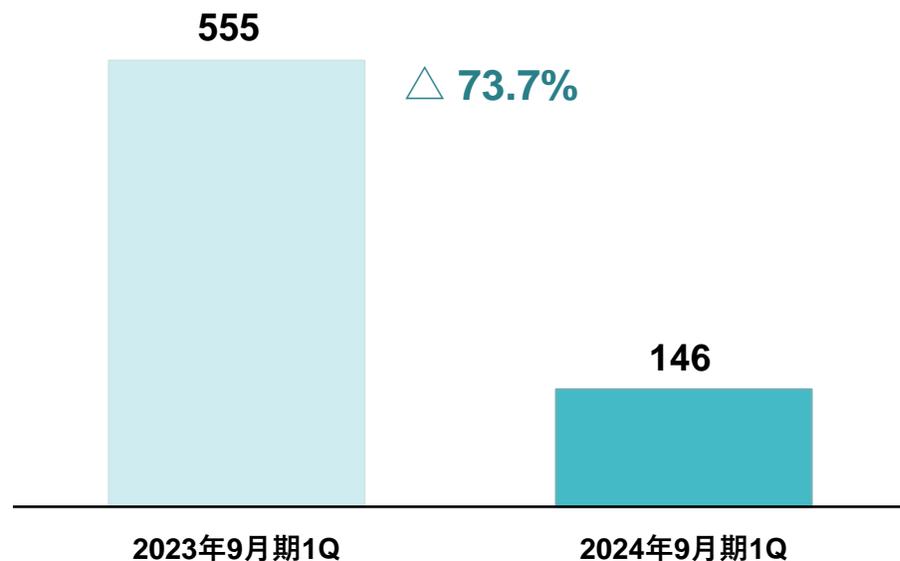


- 主に当社子会社が特定の顧客に対して提供する語学ラーニングツールの利用に関するライセンス契約が、期間満了日である2023年3月31日付けで終了したことにより、売上高は大幅な減少となりました。
- 上記等の結果、売上高は前年同期比73.7%減となる146百万円、21百万円のセグメント損失（前年同期はセグメント利益119百万円）となりました。
- 一部残存するサービスを除き、教育プラットフォーム事業は2024年3月末をもって撤退を予定しています。

## 売上高・セグメント損益

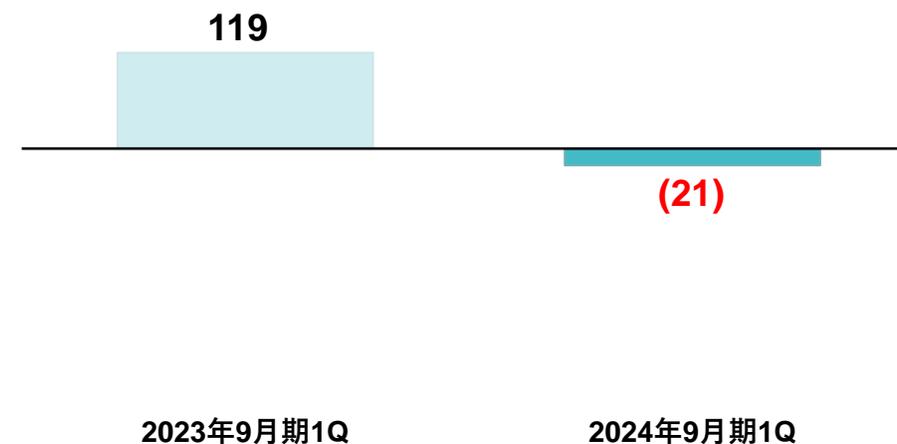
売上高

(単位：百万円)



セグメント損益

(単位：百万円)



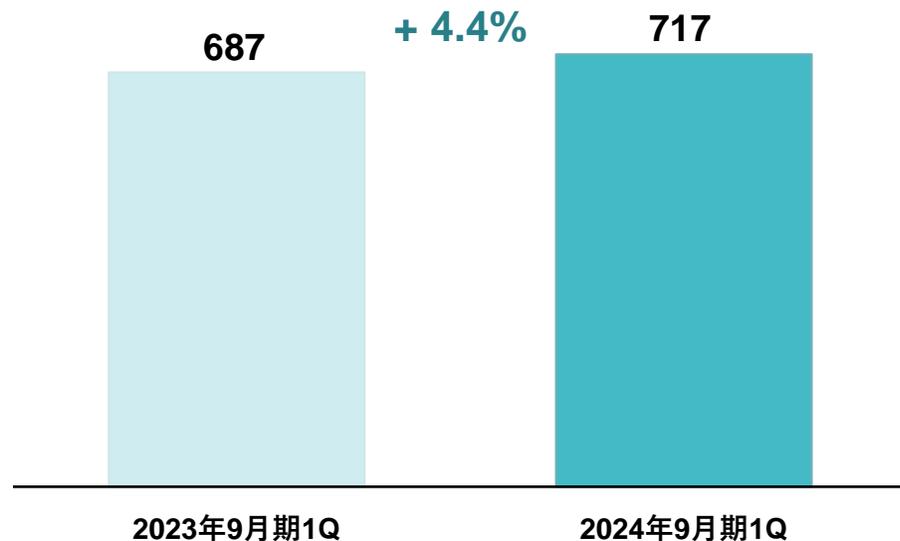
- テスト市場全体のCBT化の流れが続き、テストセンター利用者数は今期1Qで約22万人（前年同期比18.8%増）と順調に推移しました。
- 2023年12月25日付けで株式を取得し、連結子会社化したサクセススペース株式会社（SS社）及び有限会社システムサポートアンドコンサルティング（SAC社）の業績が今期1Qから寄与しました（※）。
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 4.4%増となる717百万円、セグメント利益は同 123.1%増となる64百万円**となりました。

（※）詳細は2023年11月22日付「サクセススペース株式会社及び有限会社システムサポートアンドコンサルティングの株式の取得（子会社化）に関するお知らせ」に記載

## 売上高・セグメント損益

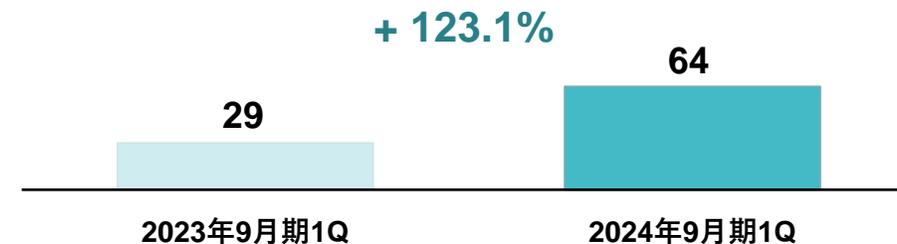
### 売上高

（単位：百万円）



### セグメント損益

（単位：百万円）

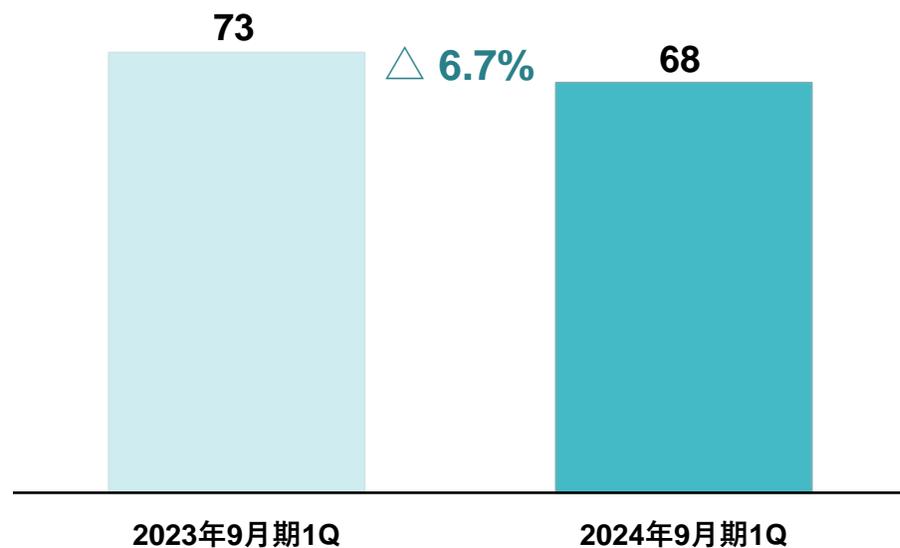


- 手書き文字認識「DEEP READ」ライセンス収入が安定して推移したものの、特定顧客向け一部プロジェクトの終了に伴い、売上高は前年並みとなりました。一方で、販売管理費の削減により利益率が改善しました。
- 上記等の結果、売上高は前年同期比 6.7%減となる68百万円、セグメント利益は同 802.2%増となる10百万円となりました。

## 売上高・セグメント損益

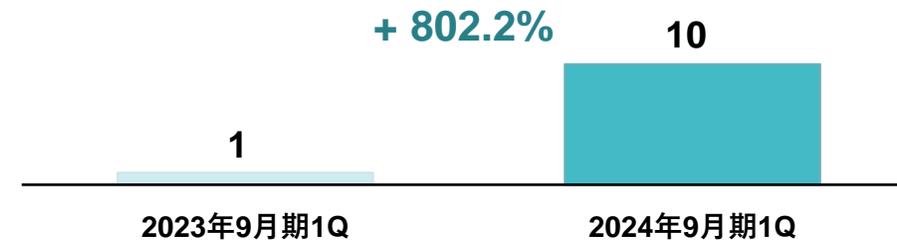
売上高

(単位：百万円)



セグメント損益

(単位：百万円)

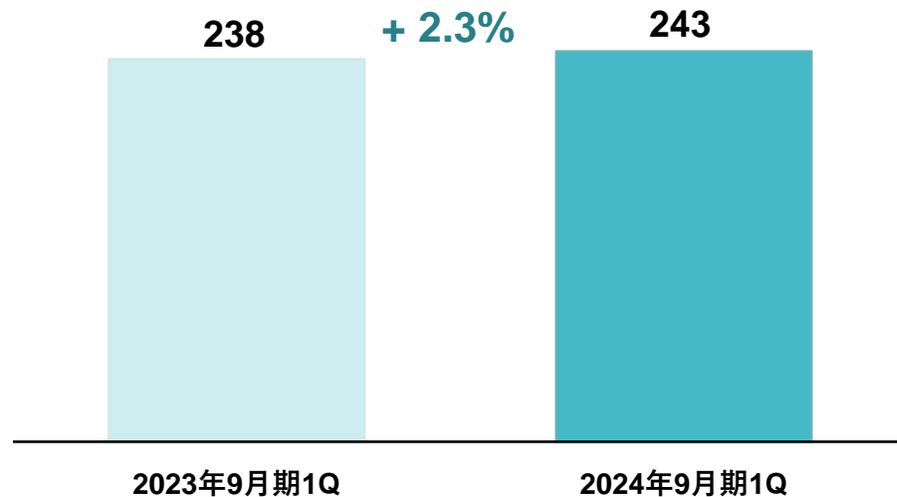


- 前事業年度に文部科学省による小学校の全国学力・学習状況調査事業を再委託先として受託しましたが、当事業年度は中学校の当該事業を委託機関として受託しました。
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 2.3%増となる243百万円、セグメント損失は4百万円**（前年同期はセグメント損失48百万円）となりました。

## 売上高・セグメント損益

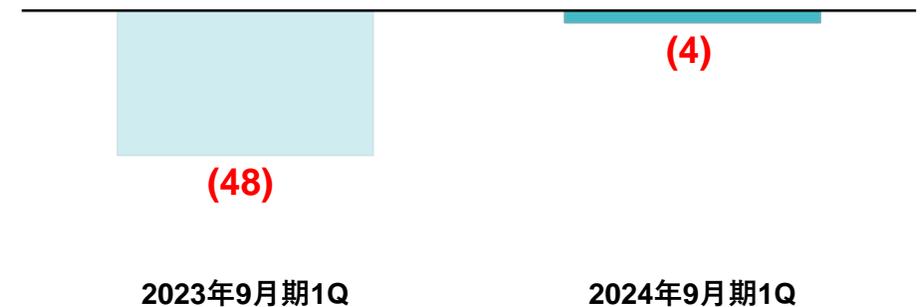
### 売上高

(単位：百万円)



### セグメント損益

(単位：百万円)





# 2024年9月期 通期見通し

第1四半期の業績は計画通り進捗しており、2023年12月8日に公表した、2024年9月期連結業績予想から変更ありません。

(単位：百万円)

	23年9月期 実績	24年9月期 1Q (実)	24年9月期 通期 (予)	進捗率
売上高	7,061	1,398	7,000	20.0%
営業利益	△540	△183	△390	—
経常利益	△616	△305	△500	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△3,105	△328	△650	—

## 通期予想の前提 (※)

### ■ 売上高の増加要因

- ✓ 前事業年度は文部科学省による小学校の全国学力・学習状況調査事業を再委託先として受託しましたが、当事業年度は中学校の当該事業を委託機関として受託したこと等により、テスト運営・受託事業の売上高が前年同期比で約9億円増加する見込みです。

### ■ 売上高の減少要因

- ✓ 当事業年度内に教育プラットフォーム事業の廃止を決定したことにより、教育プラットフォーム事業の売上高が前年同期比で約10億円減少する見込みです。

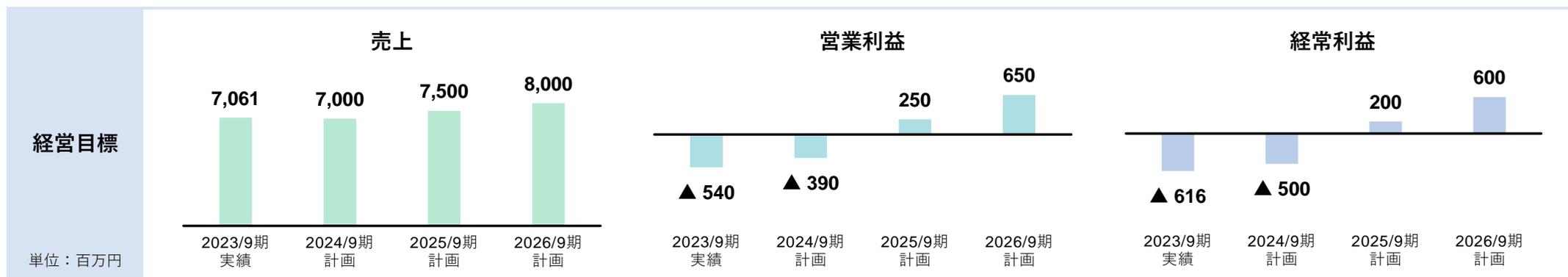
### ■ 利益への影響

- ✓ 上記の増減要因等により、売上高は前年同期比で61百万円減少するものの、外注費の最適化や本社オフィス移転を含めた徹底的な販管費の削減に伴い、営業損失及び経常損失は、前年同期比で縮小する見通しです。
- ✓ 親会社株主に帰属する当期純損失についても、前事業年度において、将来に損失を繰り延べないため固定資産の減損損失を計上したほか、投資家保護の観点から保守的に各種引当金繰入を行ったことにより、2,929百万円の特別損失を計上いたしましたが、当事業年度においては特別損失が大幅に減少する見込みであることから、損失幅が縮小する見込みです。

(※) 2023年12月8日付「2024年9月期連結業績予想の公表及び中期経営計画の策定に関するお知らせ」からの抜粋

2023年12月8日に公表した中期経営計画に基づき、3つの改革に取り組み、**2025年9月期の黒字化を目指します。**

**2025/9期 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益の黒字化を目指す**



**全社戦略** 3つの改革【事業構造改革、コスト構造改革、組織体制・企業風土改革】の断行

事業別戦略	テスト等 ライセンス事業	テスト運営・受託事業	テストセンター事業	AI事業
	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ クロスセルによる自社サービスの売上拡大</li> <li>✓ 対応端末の拡張、UI/UXの改善等 プロダクト/サービス品質向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ AI技術を活用した業務効率化</li> <li>✓ 企画/コンサルティング案件への拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ キャパシティおよび対応CBTの拡大</li> <li>✓ 運営の体制強化および効率化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ クロスセルによる文字認識、自動採点・添削サービスの売上拡大</li> <li>✓ 測定技術と組み合わせた独自AIサービスの展開</li> </ul>

詳細については、2023年12月8日付適時開示情報「中期経営計画-事業計画及び成長可能性に関する事項-」をご参照ください。

# 事業トピックス

# 事業トピックス①

## テストセンター事業

## SS社及びSAC社の株式取得による連結業績寄与

- 医療系試験など、各種資格・検定試験でのテストセンター利用が増加。今期1Qは約22万人が利用（前年同期比で**18.8%増**）
- 委託元である**SS社及びSAC社を連結子会社化**※1。テストセンター業務を一貫して行うことで、より効率的なサービス提供が可能に
- 今期1Qより、両社における前年度と同水準の営業利益（年間約80百万円※2）を連結業績に取り込む

※1：詳細は2023年11月22日付け「サクセススペース株式会社及び有限会社システムサポートアンドコンサルティングの株式の取得（子会社化）に関するお知らせ」に記載  
 ※2：除くのれん償却。のれん償却は当期において全額計上見込みで、次期以降は営業利益全額が連結業績に寄与する見通し

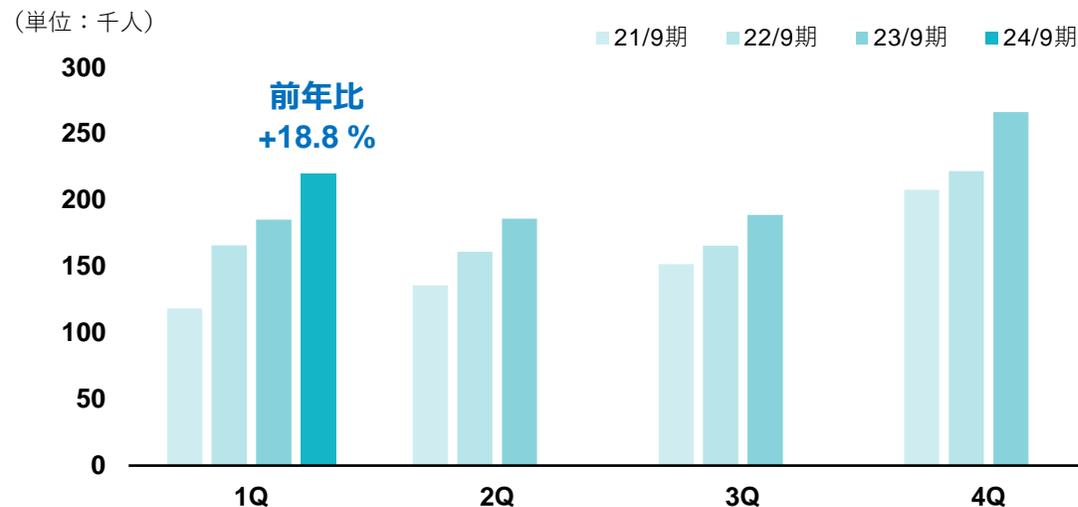
## テスト市場全体でCBT化が加速し、当社グループが運営するテストセンターの利用者数が増加

### 試験・検定のCBT化状況例示

試験・検定名	CBT移行時期	備考
工事担任者	2021年	一部試験
運行管理者試験	2021年	
統計検定	2022年	1級以外
FP技能検定	2024年	3級のみ
司法試験	2026年	検討中

出典：各試験のHP等をもとに作成

### テストセンター利用者数 対前年比の伸び率



# 事業トピックス②

## テスト運営・受託事業

## 全国学力・学習状況調査（中学校事業）の受託

- 文部科学省が実施する「令和6年度全国学力・学習状況調査を実施するための委託事業（中学校事業）」を落札
- 2024年9月期の連結業績に、売上高として約17億円を計上する見込み
- 前年同期比で売上高は増収となる一方、利益水準は前年並みとなる見通し

詳細は2023年10月2日付け「「令和6年度全国学力・学習状況調査を実施するための委託事業（中学校事業）」受託のお知らせ」に記載

### 文部科学省「全国学力・学習状況調査」委託先機関

	小学校事業	中学校事業
2018年度	ラーンズ	ベネッセコーポレーション
2019年度	教育測定研究所	内田洋行
2020年度*	教育測定研究所	内田洋行
2021年度	教育測定研究所	Z会（再委託先：教育測定研究所）
2022年度	教育測定研究所	内田洋行
2023年度	Z会（再委託先：教育測定研究所）	内田洋行
2024年度	内田洋行	教育測定研究所

※：2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響等により実施は見送り

出典：「全国的な学力調査（全国学力・学習状況調査等）」文部科学省HP

# 株式会社増進会ホールディングスとの 資本業務提携の進捗状況



Z-KAI Group



- 2022年7月29日付で株式会社増進会ホールディングスと資本業務提携契約を締結
- 各事業セグメントで複数の分科会を設け、シナジー創出に向けた協議を継続
- 具体的な協業の成果



## 2022年10月14日

文部科学省「令和5年度全国学力・学習状況調査を実施するための委託事業（小学校事業）」を株式会社Z会※が落札、教育測定研究所は再委託先として受託



## 2023年2月2日

横浜市「横浜市学力・学習状況調査（令和5年度実施）データ入力・処理委託」を教育測定研究所が落札



## 2023年9月27日

2023年冬より、Z会の通信教育受講者向けに、英語コミュニケーション能力判定テスト「CASEC」を提供することに合意年間約2万人の受験者数を見込む



その他、他自治体での学力調査等や、信頼性の高いアセスメントの構築に向けさらなる連携を継続中

※ 株式会社Z会は株式会社増進会ホールディングスの子会社

